



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2000(Vol.1, No.2)

第10回世話人会にて 谷垣禎一、太田博両氏新世話人に選任さる

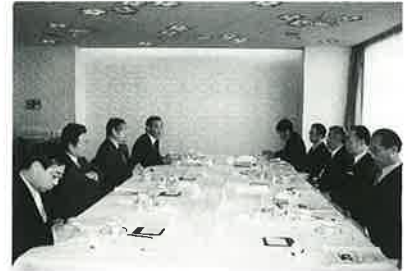
当フォーラムはさる1月21日、豊田章一郎、茂木友三郎、石井一二、伊藤憲一各世話人等関係者9名の出席を得て、都内のホテルで第10回世話人会を開催した(写真)。

当日は冒頭、谷垣禎一政界人メンバー、太田博有識者メンバーを新たにそれぞれ政界人世話人、有識者世話人として選任した。これにより世話人は、経済人2名、有識者4名、政界人4名の計10名となった。当日欠席の残りの4名の世話人は、大河原良雄、島田晴雄、小淵恵三、鳩山由紀夫。

谷垣禎一氏は、1983年衆議院議員に初当選し、郵政、防衛、大蔵各政務次官、科学技術庁長官等を歴任し、現在金融再生委員長。また、太田博氏は、1960年外務省に入省し、サウジアラビ

ア大使、国際交流基金専務理事、タイ大使を経て退官し、現在は日本国際フォーラム専務理事。両氏を迎え、当フォーラムは、強力な新体制となった。

世話人会は、ついで1999年度の活動実績と2000年度の活動計画案を審議、了承したが、2000年度においては前年度同様、3つの国際対話(右欄参照)を中心に、総会、国際政経懇話会等の各種活動を展開する予定。1999年度の収支決算報告書についても、さる12月15日に開催された第6回補佐人会(豊田章一郎、茂木友三郎、羽倉信也各世話人の補佐人出席)の監査結果が報告され、承認された。また、総額96,144,120円の2000年度予算案についても、審議および原案一部修正のうえ、承認された。



2000年度の国際対話計画

- 5月18—19日 日欧対話「EUの選択と日本」(東京)(英王立国際問題研究所との共催)
- 7月13—14日 日中対話「新世紀のアジア情勢と日中関係」(東京)(中国国際友好連絡会平和と発展研究センターとの共催)
- 10月19—20日 日韓対話「日本と韓国:新たなパートナーシップのための基盤の構築」(東京)(韓国国際問題研究所との共催)

当フォーラム・ホームページ開設さる

URLは <http://www.jfir.or.jp/gf/>

当フォーラムは、メンバーの参加する国際対話をつうじて、日本と世界の

The Global Forum of Japan
グローバル・フォーラム

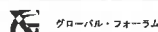


グローバル・フォーラム(The Global Forum of Japan)は、日本国際フォーラムの姉妹団体ですが、日本国際フォーラムの一部ではありません。日本国際フォーラムが研究や調査を主たる目的とする非営利の財団法人であるのに対して、グローバル・フォーラムは国際交流の知識の普及のための公益財団法人です。独立の目的で設立され、民間、非営利、非営利、独立の立場から運営されています。団体は、財団法人ではありませんが、業態に類似して活動しております。このホームページは、グローバル・フォーラムの「概要」、「活動内容」、「会報」を掲載することを主として、日本国際フォーラム同様、グローバル・フォーラムの活動についても、その内容を詳細に紹介していただければ幸いです。

概要・会員名簿・会報のページへ

日本国際フォーラムのホームページへ

日本より多くの人々へお知らせへ



グローバル・フォーラム

当フォーラム・ホームページのトップページ

知的交流の強化を目指してきたが、そのような知的対話の内容を広くメンバー以外の方々とも共有する必要があるとの認識に基づいて、本年1月1日付けで本「会報」(季刊、3,000部)を創刊したほか、さらにこのたびには第二弾として、当フォーラムのホームページ(URL: <http://www.jfir.or.jp/gf/>)を立ち上げた。

内容は和英両語版で構成され、「概要」「会員名簿」「会報」に加え、国際的交流の「対話記録」も掲載されている。すなわち、昨年11月の中華欧亞文教基金会との共催による「日台対話」(本「会報」創刊号参照)の記録全文(ただし英語版においては、その概要

のみ)が掲載されており、日本の「南の隣人」である台湾のオピニオン・リーダーたちの考え方が直接伝わってくる。この「対話記録」は、今後予定している新たな対話(上欄)についても、逐次その内容を掲載してゆく予定である。

「会報」の創刊により、当フォーラムの存在とその活動内容は、メンバー以外の多数の方々にも知っていただけるようになったが、本ホームページの立ち上げにより、その範囲は日本国内から世界全体へと一挙に拡大することが期待される。

ホームページの立ち上げを報告した世話人会(上欄)においても「現在のこのような情報革命時代において、ホームページの役割の大きさは計り知れない。世界を視野に入れると、日本語版よりもむしろ英語版が大切だ」等の激励の言葉が続出した。

ストール元オランダ外相を囲む夕べ 「民族紛争と予防外交」/第14回総会開催

さる2月2日、当フォーラムは第14回定例年次総会およびマックス・ヴァン・デル・ストール元オランダ外相(写真中央)を囲む夕べを開催した。

当日は、大河原良雄当フォーラム代表世話人のほか、石井一二、高島肇久、高橋一生、田久保忠衛、中馬清福、広中和歌子、三好正也、山口達男、伊藤憲一、太田博、瀬崎克己、阿曾村邦昭等メンバー23名が参加した。

定例年次総会では、伊藤憲一世話人事務局長より、さる1月21日に開催された第10回世話人会(1頁)の審議結果が報告され、了承された。

続いて、ヴァン・デル・ストール元オランダ外相を迎え、講演懇談会が開催されたが、同氏よりは、「民族紛争と予防外交」と題して、つぎのような基調講演が行われた。

同氏は、オランダ上下両院議員、外相(2回)等を歴任の後、1992年にCSCE(現OSCE)の初代少数民族高等弁務官に就任し、現在までその任にあるが、欧州地域における紛争の予防・解決に向けて重要な役割を果たしており、今回はその貴重な体験を聞く絶好の機会となった。

同氏は「OSCEは米露両国およびEU全加盟国が参加する唯一の欧州組織であり、人道的問題等が発生した場合には国内問題にも干渉できることに



大きな特徴がある。少数民族高等弁務官は少数民族の利益代表ではなく、少数民族問題が欧州の平和と安定に脅威であるという認識から紛争予防・解決に向けた任務を担い、自らの判断でそれを遂行できる独立性を持っている。これまで、旧ソ連地域における分離・独立問題や旧ユーゴスラビア等における民族対立等の問題において、当事者間の仲介、円卓会議の開催、指導者の啓蒙などに尽力してきた。紛争予防は重要な任務であるが、それに当てられる予算は少ない。例えば、我々の年間予算はNATOの軍事介入の1日の予算のわずか3分の1に過ぎない。この分野での予算を増やし、活動を充実させることが必要である。沖縄サミットで何らかのメッセージが発信されることを期待したい」との話があった。

その後、欧州でのOSCEの経験をどのようにアジアで生かすか等の問題をめぐり、活発な質疑が交わされた。

中国から高海寛氏を招き 国際政経懇話会開催

当フォーラムは、さる12月10日に日本国際フォーラム客員研究員として来日中の中国国際友好連絡会・平和と発展研究センター主任の高海寛氏(写真中央)を講師に招き、国際政経懇話会を開催した。当日は「新しい世紀のアジアと中日関係」と題し、歴史問題、中国脅威論、台湾問題、日米中関係などにつき、高氏から中国の考え方をオフレコベースで腹藏なく語ってもらった。

なお、当フォーラムと高氏が主任を務める同センターは、1998年7月に東京で日中対話「アジアの安定と日中両国の役割」を共催したが、本年7月にも東京でその第2回目を共催する予定であり、現在鋭意準備を進めている。



フォーラム活動日誌 (12-2月)

12月10日第120回国際政経懇話会(高海寛中国国際友好連絡会・平和と発展研究センター主任他24名)

12月15日第6回補佐人会にて1999年度決算監査(笠間正治、片岡晃、千原克彦各補佐人他4名)

1月1日『グローバル・フォーラム会報』創刊

1月21日第10回世話人会にて谷垣禎一、太田博両世話人選任(豊田章一郎、茂木友三郎、石井一二、伊藤憲一世話人他5名)

2月2日第10回総会およびMax van der Stoel元オランダ外相を囲む夕べ「民族紛争と予防外交」(大河原良雄代表世話人他22名)

2月25日第121回国際政経懇話会(James Foster在京米国大使館政務担当公使他28名)

事務局便り

「ヴァン・デル・ストール元オランダ外相を囲む会」(2頁)は、時局的関心の高まっている紛争予防の現場からの報告として好評でした。企画した事務局もホッとしていますが、この企画は、そもそもは総合研究開発機構(NIRA)の福島安紀子主任研究員のご好意によって実現したもの。福島さんには改めて御礼申し上げたい。

■新規就任世話人・ 入会メンバーの紹介

【政界人世話人】

谷垣 禎一(衆議院議員)

【有識者世話人】

太田 博

(日本国際フォーラム専務理事)

【経済人メンバー】

杉田 力之(第一勧業銀行頭取)

(いずれも1月21日付け)



グローバル・フォーラム会報
2000年春季号
(第1巻 第2号 通巻第2号)

発行日 2000年4月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 山元 哲史

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfir@mars.dti.ne.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.jfir.or.jp/gf/